

つながりがみつかる！つながりがはじまる！

Twitter ★ http://twitter.com/#!/center_i

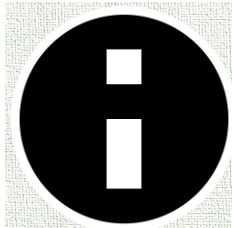
NEWS LETTER IDEA

いちのせき市民活動センターニュースレター アイデア

JUNE

2011

Vol.1



アイデア6



市民活動ニュース
イベントカレンダー
スタッフ紹介

森は海の恋人植樹祭

——自然の環から人の和を



六月五日、一関市室根町の「ひこばえの森」にて、第二十三回森は海の恋人植樹祭が開催されました。

このイベントを開催するのは、特定非営利活動法人森は海の恋人（気仙沼市）と、室根十二区自治会（一関市）です。三

陸の漁師たちが「いい牡蠣をとるにはきれいな海が大切。そのためには豊かな森が必要だ」と森、川、海の生態系の結びつきを知ってもらうために始めた植樹活動は、森里海連環学という新しい概念の学問を起こし、今では世界モデルとして広く知られています。三月十一日に発生した東日本大震災により、気

仙沼市にある同法人の事務所が全壊し、今年度の植樹祭の開催を断念することも考えましたが、室根地域の人の励ましがきっかけで、今年も木を植える事を決めました。東日本震災の復興を祈念しての植樹祭です。

室根十二区の自治会長三浦幹夫さんは、植樹祭を行う際の地域の様子について次のように語りま

と、自然の流れで開催する事が決まっていました。そんな三浦さんが「海よ甦れ！森は海の永遠の恋人 信じよう！集う仲間

の心と海にひこばえを…」というスローガンを掲げ、復興を祈念したセレモニーでは、応援メッセージが届けられ、各方面から集まった千二百人の参加者が復興の願いを込めて植樹しました。

震災の復興と豊かな海の再生への強い願い、森と川と海とのつながりは、そこで生活する人々のつながりも支えています。

例年、山の恵みで育った海の幸が揃うのですが、今回は、津波で流されありません。十二区の幸でもおとなしをと、十二区の住民が山の幸を準備し、沿岸地域へエールを送り、畠山さんは、「来年は、必ず海の幸を持ってくる」と約束してくれました。

特定非営利活動法人

森は海の恋人

NPO 法人 森は海の恋人は、『自然の「環」から、人の「和」を育てよう！』をキャッチフレーズに、環境教育・森づくり・自然環境保全の3分野で活動する特定非営利活動法人。

さまざまな環境問題が深刻になりつつある現在、科学技術の進歩にも陰りが見えつつある中で、自分たちにできることは、自分自身のライフスタイルを見つめ直すことの必要性に視点を当てている。

現代人の普段の生活でほとんど省みられることのない自然の雄大な循環・繋がりに焦点を当てた事業を展開し、森にあって海を、海にあって森を、そして家庭にあって生きとし生けるものすべての幸せを思える人材の提供を目指している。

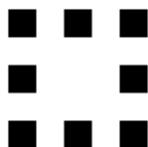
復興を記念したイベントも行われました



左 わんこもち大会室根場所の開催

右 震災の影響で3年生の引退公演が出来なかった気仙沼高校ダンス部・合唱部が、ひこばえの森交流センターで、涙の公演。

「ひとりの困った」を
「みんなの困った」に!
地域住民は何を必要と
しているのか、何をし
たいのか、地域の課題
は何か。自分たちがで
きることは何かを一緒
に考えます。



ロゴマーク

9月に合併をする
藤沢町を含めた「8
つの地域」が創る1
つのひろば「スクエ
ア」を象徴的に表し
ています。

NEWS

CANPANブログ はじめました

様々な情報の発信を
続け、市内の市民活
動団体の活動をサポ
ートしていきます。
市民活動センターブログ
☞<http://blog.canpan.info/ic-hinoseki/>

2 森は海の恋人植樹祭

NPO法人森は海の恋人 & 室根町第12区自治会の共同開催

4 センターのやってること

川崎まちづくり協議会/インアーチ全体会を開催/陸前高田市の災害
復興支援/いちのせき市民活動センター千歳サテライトを開設します

5 市民活動団体紹介

いちのせき子育てネット 代表 岩淵豊子さん

6 イベントカレンダー

ホテル観察会/カッパの大冒険/地球のステージ/ふるさと親子教室
しょうがい者乗馬会/そろばん学習会/ふるさと学習院/焼き物教室
創作指導会/自然学習会

8 スタッフ紹介

佐藤望 藤野幸伸 加藤通摩佐



7月の表紙

Vivale 一関の今季初の公式試合

「HONDA CUP」(6/19)

予選リーグ1勝1分1敗で決勝T進出はなりません
でしたが、9月に開幕する東北2部北リーグ優勝目
指して、頑張ります。

いちのせき市民活動センターニュースレターideaは、市
民活動がアイデアを持ってNPOと行政や企業。市民と
の出会いの機会を創りだすことを目的とした情報誌で
す。センター情報をはじめ管内の市民活動団体情報や
行政情報をお届けします。

団体 紹介

「おやこひろば」を主催

いちのせき子育てネット



①イメージキャラクターの「いこねちゃん」。

②みんなで創作活動中。



親子広場を利用する子どもと保護者のみなさん

*PROFILE おやこ広場

一関地域子育てネットワーク『虹』の活動を経て、平成20年「いちのせき子育てネット」として法人格を取得。現在、新鮮館おおまち内「おやこ広場」にてスタッフ3名で活動中。

同志がいるんだという思いがあれば、気が軽くなる。

———そういう場所の提供をしたかった。

お母さんが「孤育」にならないように——

子育て中のお母さんが孤立しないように、母子を支えていく事がおやこ広場の目的。「スタッフや広場に來ているお母さん達と話しをする」ことで、育児への不安や孤独感の解消に繋がれば」と代表の岩淵さんは話します。

「NPO法人いちのせき子育てネット（通称「おやこ広場」）は平成二十年に法人格を取得しました。その前身である一関地域子育てネットワーク『虹』は、子育て支援団体「ゆずりは」と「子育てボランティアわ・わ・わ」が県の援助を受け協力して設立したものです。大変な思いをしている保護者の力になりたい、という強い気持ちがあったそう。その後、ボランティア講座を受講して得た知識を活かし、現在の前身となる子育て支援団体を設立。

するのはあくまでも子育てする保護者の支援

「うちだけじゃないんだよ、みんながそういう想いをして子育てしてるんだよ。同志がいるんだという思いがあれば、気が軽くなる。そういう場所の提供をしたかった」と話します。

お母さん同士で話せない人はスタッフと話したり、スタッフが気の合いそうなお母さん同士を紹介したりするそうです。まさに、おやこ広場はお母さんとお母さんの仲人のような存在です。

お母さんがほっとする時間を作って、その後、子供へ笑顔を向けてもらえるように、ストレスを減らして、子供といられる時間と空間づくりをしています。

※いちのせき子育てネット

☎0191-26-6400

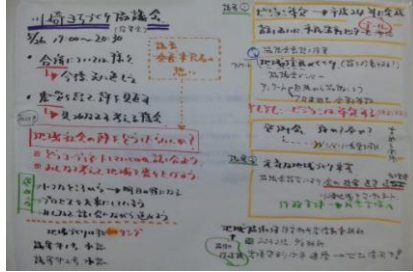
センターのやっつること

川崎住民みんな

まちづくりのビジョンを共有する

川崎まちづくり協議会は、川崎に住む人たちが自分たちの地域課題や将来の姿を考え、みんなで地域づくりをする機運を高めるために、3月に設立総会を開催し発足しました。

一関市の協働推進アクションプランも完成し、今年度から積極的な協働の取り組みが始まっていくところですが、地域協働の仕組みである、地域協働体としての市内最初の取り組みになります。川崎まちづくり協議会の特徴は、議会制を採用し、代表は議長となります。役員は議員となり、会員さんをはじめ地域住民の声を拾いながら、地域づくりの「和」「輪」を広げます。住民の地域づくり宣言をするための話し合いが、これから始まります。



千厩サテライト を開設します

いちのせき市民活動センターは、これまで大町を拠点として活動してきましたが、一関市の地域づくり、市民活動の活性化を推進するために、千厩サテライトを開設します。

個人の尊厳と地域力の向上

「ひとりの困った」を「みんなの困った」に！地域住民は何を必要としているのか、何をしたいのか、地域の課題は何か。自分たちができることは何かを一緒に考えます。

自治会組織やNPO団体、公民館活動など、これから活動を始める人、既に活動をしている人に対して、市民活動や地域づくりの相談対応・情報収集・発信を継続的にを行います。

「新たな公共」の担い手として、市民活動団体が地域の人たちと協働して活動する地域基盤を創出できるように、今後の市民活動支援事業に、よりいっそう力を入れていきます。

市民活動の情報を共有するために

今年も一ノ関駅東口で市民フェスタを開催

一関の市民活動ネットワーク“インアーチ”の本年度最初の会議を行いました。3月の震災後、各団体が沿岸地域の支援活動をしたり、市内での活動を行ったりと、それぞれ忙しく動き、スタートが遅くなりましたが、2011年



のインアーチの活動のキックオフです。今回は、13団体（関係団体含め）から25名の参加でした。年度の始まりということで、今回の議題は、平成22年度事業報告、平成23年度事業計画です。昨年度の事業報告を踏まえ、反省や課題を述べ、振り返りをして、今年度の事業に反映させることとしました。

いちのせき市民活動センターとしての復興支援 つなぐ支援の在り方を考える

東日本大震災により被災した陸前高田市へ、3月末から避難所を訪問し、被害状況や避難所のニーズ把握など、地域の声を聞く支援活動を行ってきました。今回は、広田半島長洞地域への支援をお知らせします。長洞地域は、60世帯の小さな部落です。そのうち24世帯が被災しました。地域の拠点となる公民館が、真っ先に津波に流され避難所を失い、被災した方たちを、地域のみんで受け入れて避難生活を送っていました。地域の拠点が無いと、会議など地域の集まりは、全て会長のお宅が中心となります。そんな時に、仮設プレハブを提供してもいいというオムネスグループ様（本社：山形県、岩手前沢事業所：東北CIC 研究所）からのご提案をいただき、長洞仮設公民館として活用することになりました。様々なニーズの中、支援したい者と本当に必要な支援を求めている地域のつなぎ役として関わることができました。（6/24完成引き渡し）



自分たちで作った「トモシビ」から、祈りが届きますように

ココロトモシビ

一関キャンドルナイト 2011・100万人のキャンドルナイト「ココロトモシビ」は、一関市孤禅寺の「あいぽーと」で開催されました。東日本大震災から100日のこの日、今回の企画に賛同したあいぽーとを会場に、防災センターである「あいぽーと」の事務局と、主催は「一関世代に架ける橋（代表・橋本真由美さん）」。

3月11日の「東日本大震災」を経験し、被災者でもある自分たちにできる事という声から、被災した方々のご冥福をお祈りし、救護活動を行う方への感謝の気持ちを込め、会場では募金活動も行い、手造りエコキャンドルをプレゼント。実行委員長の柴田さんは「少しでも被災された方々のお役にたてれば…」と語ります。



一関世代に架ける橋

プロフィール

昭和40年から活動を開始し、岩手のもりおかでも活動をしています。現在の代表は橋本真由美さんです。

カレンダー



復興メッセージ

森は海の恋人植樹祭にて

ブログ <http://blog.canpan.info/ichinoseki/>

環境

ふるさとの文化を身近に楽しく学ぼう

NPO法人一関文化会議所では、「今に残る一関藩をかいま見る！」と題して、ふるさと学習院を開催します。6月から10月まで月に1回開催し、好きな講座だけを受講することも可能です。希望者は申し込みのうえ、会場を受講料をお支払い下さい。

◎日時 7月23日14～16時
 ※場所 一関市総合福祉センター
 →NPO法人一関文化会議所
 ☎0191-32-4333
 ※参加費 1200円(9月/1500円)

焼物

焼き物教室でより豊かな感性を

どんぐりの会では、大地の自然の恵みを感じられる焼き物教室を開催します。講師に紫波町在住の陶芸家、藤尾良一さんを迎えます。希望者は早めに申し込んでください。

◎日時 7月10日10～15時
 ※場所 蔵ビノキオ
 →どんぐりの会
 ☎0191-25-3452
 ※参加費 1500円
 ◎バターナイフ・古タオル・古新聞

創作

小中学生を対象に創作指導会を開催

一関市少年少女発明クラブでは、小中学生を対象にした創作指導会を開催します。教材は主催者側で準備します。

◎日時 7月10日
 ※場所 森上製作所
 →一関少年少女発明クラブ
 ☎0191-26-4928
 ※参加費 無料

自然

自然学習会で自然をもっと身近に

NPO法人里山自然学校はずみの里では、花泉の豊かな自然を楽しめる自然学習会を開催します。希望者はお早めに申し込みのうえ、はずみの里に集合してください。

◎日時 7月2日
 ※場所 世界谷地原生花園
 →NPO法人里山自然学校はずみの里
 ☎0191-82-3857
 ※参加費 1200円
 ◎飲み物、弁当、雨具、筆記用具、メモ帳を持参して下さい。

市民フェスタ 11

インアーチの今年度事業は、「いちのせき市民フェスタ11」を8月28日(日)に開催します。もちろん、全国地域事例トレーディング事業も開催します。全国の先進事例が一関に集まる全国地域事例トレーディングは、過去2年の開催で、参加する側にも新たなネットワークが芽生え始め、今回は、震災の影響で開催も悩みましたが、「みんなに笑顔で会いたい。」そんな純粋な思いから開催を決断しました。さらに、東日本大震災復興支援活動ゾーンを設け、沿岸地域の復興に向けた各団体の支援活動の様子を発表し合い、内陸では知ることのできないかも(?)しれない情報交換会も開催します。

ひとりの呼びかけで
集まった復興の想い

募金活動で復興支援

3月11日の東日本大震災を体験したことをきっかけに、高校生たちの自主的なまちづくり活動を行う「いちのせきUC」は、メンバーをはじめ有志を募り4月3日、イオンスーパーセンター一関店で、復興支援のための募金活動を行い、集まった義援金は、わずか2時間の募金活動でしたが、17万5567円の義援金が集まり、今回の震災が人ごとではなく、みんなの困ったとして人々の記憶に残っていることを感じました。

子どもたちに学校が再開するまでの間、普段と変わらない生活をさせようと地域の人たちが自分たちで運営する長洞元気学校へ、4月13日に直接届けました。今回のことをきっかけに、夏休みには、交流会を企画したいと考えています。



いちのせきUC

平成22年設立。一関市内の高校生有志により、まちづくりのアイデアを出し合い、活動を行います。

花泉の新鮮な野菜で
沿岸地域に元気をお届け

沿岸地域へ野菜を提供

老松活性化同志会では、4月25日から、継続的に、いちのせき市民活動センターが週に一度、東日本大震災で被害を受けた沿岸地域に行く際に、それに合わせて、一関市花泉町で採れた新鮮な野菜を届け、想いを繋いでいます。

肉、魚、野菜、卵、牛乳などの生鮮食品は保存が難しく、支援物資として不足しています。炭水化物中心の食事による栄養バランスの偏りが問題となっています。支援物資では手に入りづらい新鮮な野菜は、食生活を支援するだけでなく、避難所や仮設住宅で生活をする方々に元気をお届けする、素敵な活動です。野菜をお届けしたときには、地域の特徴を生かした食材が非常に喜ばれます。野菜を頂きありがとうございます。



老松活性化同志会

昭和63年設立。先人顕彰と文化遺産の保存を目的に活動中。現在の代表は小野寺登さん。

いちのせき市民活動センター ☎0191-26-6400

自然

幻想的な夢灯りで
蛍の観察をしよう

NPO法人北上川サポート協会では、夏の季節を楽しめる「ホタル観察会」を開催します。参加希望者は虫よけ対策のうえ、懐中電灯をもって門崎小学校前に集合して下さい。

◎日時 23年7月2日 18:30~
※場所 川崎町風呂川
→NPO法人北上川サポート協会
☎0191-36-5666

自然

夏の川遊びの楽しさ
さわって、感じよう

北上川サポート協会は、川の生き物や夏の川遊びをテーマにした「カッパの大冒険」を開催します。参加希望者は9月7日までに申し込み、川崎防災センターに集合して下さい。

◎日時 23年7月18日 9時~12時
※場所 砂鉄川
→NPO法人北上川サポート協会
☎0191-36-5666
①http://blog.canpan.info/kitakamigawa/※申込み用紙をダウンロード
◎帽子・タオル・着替え・ズック
ぬれてもいい格好。

ART

世界で出会った人々の希望
映像と音楽で感じてみよう

地球のステージ一関実行委員会では、地球のステージ第5番&震災特別編を開催します。精神科医の桑山紀彦さんのギターとヴァイオリンと歌が魅力のイベントです。

◎日時 23年7月23日 18:00~
※場所 一関文化センター中ホール
→佐藤友季子さん
☎090-5184-1307

体験

親子で学ぶ
ふるさとへの感謝◎

老松活性化同志会は、一関市または周辺の子ども会(児童・保護者)を対象に、絵馬づくり、もちつきなどを楽しめる「花と泉のふるさと親子教室」を開催します。参加希望者はお早めにお申し込みのうえ、当日8時30分までに花と泉の公園に集合して下さい。

◎日時◎23年7月30日 9時~16時
◎23年7月31日 9時~16時
※場所 花泉町
→老松活性化同志会
☎0191-82-3382

自然

佐々木牧場で
馬たちと触れ合う

パカポクラブでは、馬たちと触れ合う時間を楽しむしょうがい者乗馬会を開催します。参加希望者とボランティア希望者は佐々木牧場に集合して下さい。

◎日時 23年7月25日 10~12時
※場所 佐々木牧場
→パカポクラブ
☎0191-82-5584
※参加費 一人1000円

学習

そろばんを学んで
学習に挑戦しよう

NPO法人全国地域学習振興会では、そのばん学習の基本を学べる、そろばんの体験学習会を行います。参加希望者は一関市山目の認定教場に申し込んでください。

◎日時 土日祝日を除く 16時~17時
※場所 認定教場(小野寺塾指導ネットワーク)
→NPO法人全国地域学習振興会
☎0191-82-5584
※参加費 無料

スタッフ 紹介

佐藤望
さとう・のぞみ

加藤通摩佐
かとう・みちまさ

藤野幸伸
ふじの・ゆきのぶ



今年度から、いちのせき市民活動センターの職員になりました、佐藤望です。仕事は初めて経験することの連続で、日々勉強と反省の繰り返しです。社会人として必要な教養を身につけ、地域で必要とされていることの理解を第一として、がんばります。どうぞよろしくお願いたします。(佐藤)

今年度から、いちのせき市民活動センター職員になりました、加藤通摩佐と申します。何もかもが、新しく経験する事ばかりですが、皆さんのお役に立てる様に勉強していきたいと思えます。人と人とを繋ぎ、皆の笑顔が出せる、そんな活動をしたいです。(加藤)

今年度から、いちのせき市民活動センター職員になりました藤野幸伸と申します。地域において、生き生きと暮らす為の舞台として、安心・安全な生活、そして美しい景観、楽しい文化・教育の実現を目指し、地域住民の方々のお話を傾聴し、課題を一つ一つ解決し、生活満足度の向上をお手伝いできたらと考えております。(藤野)